

## ◆担い手育成事業

### 児童福祉施設児童への漁船漁業水産教室

水産海洋技術センター 紫波俊介、大嶋洋行、米丸浩平

※. 白濱可梨

#### 1. 目的

児童福祉施設児童に対し、糸満漁港や漁業が、心のよりどころや、将来の就職先の一つになり、希望を持ってもらえることを目的とした。

西村昂平組合員を中心とした糸満漁協青壮年部、糸満漁協職員、高江洲鮮魚店、漁業者婦人等が実施した。

#### 2. 方法と結果

平成28年9月10日に糸満漁業協同組合にて島添の丘、石嶺児童園の小中学生11名を対象に実施した。当初参加予定だった高校生達は部活動等学校行事により急遽欠席となってしまった。

##### (1) 座学

当職からは糸満の水産業とし、糸満漁協漁業者・職員の概要と、魚業種・年代別の漁業者収入、西村氏の収入・支出（乗り子への給与）・収益を説明した。西村氏からは動画にて操業風景をわかりやすく示し、仕事の内容、厳しい職場だが、機材が進化し、自身のように特別な知識がなく、県外から糸満にきて携わった漁業でも、糸満漁港での人のつながりで仕事を営んでいることを説明した。

##### (2) 乗船体験

漁船3隻に分かれて乗船し、漁具・観測機器等の説明を行いつつ漁港内を遊覧した。帰港後、魚槽内からのマグロ陸揚げを見学した。

##### (3) マグロ解体

西村氏が寄贈したマグロを青壮年部員・職員が解体し、児童と刺身に切り分けた。

##### (4) 昼食会

児童が切り分けた刺身とともに、漁業者の妻・職員・仲買が調理した魚汁、南蛮漬け、フラ

イを食した。また、ハーレーや若い漁業者・職員が年一回行っているバーベキューの映像を流し、糸満漁港の文化・地域のつながりを西村氏が説明し、「僕らは糸満の漁業で繋がっている人達と「大海族」として繋がりをもちたいと思っています。皆も今日で一員になっているので、何かあったら糸満に来てもらえればということを感じておいてもらいたい」との話があった。

児童は「なかなか無い経験をさせてもらって有り難うございました。今後何かあったら、またよろしくお願いします。」と感想を述べた。

最後に大城和夫組合員から「今日は楽しんでもらえたら、それで良いです。立派な大人になって下さい。」との言葉で締めくくられた。

#### 3. 考察

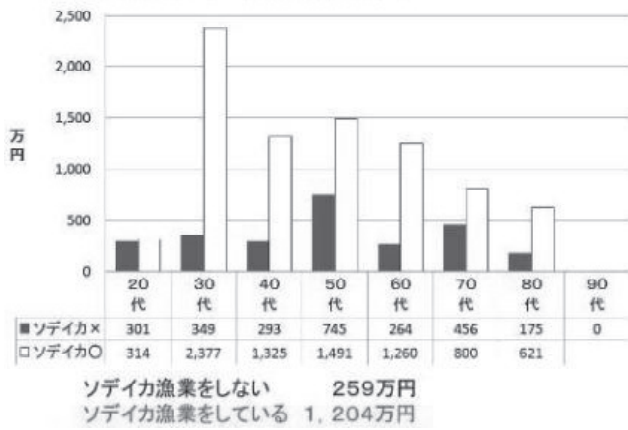
水産教室で児童に対し、地域の漁業者収入、まして船主や乗り子の収入を伝えた手法は初めての試みである。やる気があれば漁業者が乗り子を受け入れる準備があること、若い漁業者でも独り立ちでき、高い収入をあげられることを示せるのは、後継者受け入れを目的とした活動には、より直接的で、児童がわかりやすく将来像を描けるため、今後広く実践すべきと考える。

ウェアラブルカメラの小型・軽量化により、ソデイカのような長期間の漁業でも容易に漁業者が撮影できるため、臨場感ある映像となり、漁業者自身も説明しやすい等、効果的な教材・宣材になると考えられる。

本活動は漁業者・漁協職員の負担は大きいのが、助成金はなくとも実施可能なため、継続性が高いことから、翌年以降も実施することとなった。

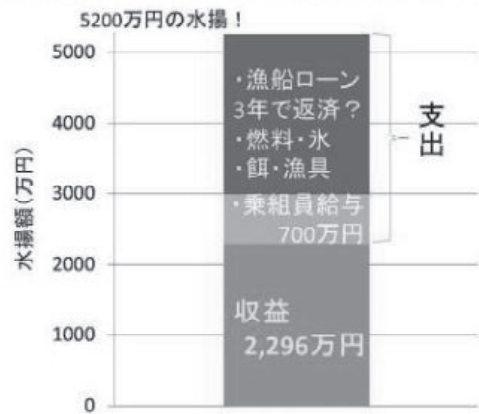
※. 水産海洋技術センター非常勤職員

一人当たりの平均水揚額は？



糸満漁協年齢・漁法別水揚額

糸満漁協水揚げNo1の経営(今年度)



西村昂平組合員漁業経営状況



西村組合員による操業説明



漁業者婦人・漁協職員等による調理



漁船からのマグロ陸揚げ



漁協職員・青年部によるマグロ解体



漁協職員・青年部による児童への刺身指導



児童からの感想発表